

# 館報 はた



スージーちゃん スイカワくん

平成 29年 9月 1日 現在

世帯数	6,088戸
人口	15,765人
男	7,600人
女	8,165人

## 波田ささいさい祭

7月29日開催されました

夏の大きなイベントである波田ささいさい祭も、今年で37回目を迎えました。もう37回かと思いつながら、10数年ぶりに見に行ってきました。

扇子田公園で開催される前はどこで?と思つていたら、「昔はグラウンドでやったよね」なんて声も聞き、花火も打ち上げられたのかな?などと昔を思い出しました。グラウンドで開催されて



いたことは思い出せませんが、確かシャトルバスが出た記憶は鮮明に残っています。画期的でした。バスが出るなんて、そんなに力を入れていた一大行事だったんだなと今更ながら思います。多くの方が「みんな行かなきゃ!」という思いにさせられる本当に大きな行事だったように思っています。子ども達も楽しみにしていて、くじ引きで何か当

った、とうれしそうにしてた姿を思い出しました。さて、今年のささいさい祭のイベントを振り返ってみると、アリーナ前のステージではポスターコンクールの表彰式が行われ、8名の方が賞状を受け取っていました。テーマは「花火」で公園内にも貼られていましたが、とても力強い美しいポスターでした。その後、波田中学校吹奏楽部の皆さんの演奏があり、先生はじめ生徒の皆さんは浴衣&甚平という姿でとても格好良く、またすばらしい演奏でした。アリーナ前の広場では、「すいかのランタン作り」が行われていました。毎年恒例で、波田地区の子ども会育成会の子供さんによるものだそう。色々な顔が楽しめました。イベント広場では、ひとときわにぎわっ



ている催し物がありました。「ビンゴゲーム大会」です。前が見えないくらいの人だかりでした。また、宝くじは当たりませんでした。「宝くじの当たらくじ引き」では、行き交う人が何回かくじを引いている姿を見ました。そしてイベントにつきもの!といえは食べ物です。商工会の方中心に出されていて、賑わっていました。

午後2時からの開催でしたが、早くから駐車場もいっぱいになっていました。夜は花火大会がありました。空模様は怪しく、できるのかな?なんて思いながら帰ってきました。花火の音だけ聞きました。昔よりイベントの内容は少ないように感じましたが、参加している人を見ると浴衣女子が多くなり、華やかになっていました。

この波田地区の最大イベントでもある「ささいさい祭」が、今後も盛大に開かれることを期待しつつ、またこの先元気で参加できますように願うばかりです。

この波田地区の最大イベントでもある「ささいさい祭」が、今後も盛大に開かれることを期待しつつ、またこの先元気で参加できますように願うばかりです。

## 夏休み子ども企画 流しソーめん大会

8月6日に1区町会・公民館・子ども会育成会では、児童のみなさんに楽しく健全な夏休み生活を過ごしていただくため、第8回「食べ放題・流しソーめん大会」を1区集落センターで開催しました。

役員皆でテントを張って場所作りをしたり、トイレの設置をする人、ソーめんをゆでる人など一丸となって当たっていました。



小学5年生の女子児童が、流しソーめん大会参加の呼びかけを各々工夫し

放送で流しました。大人も保育園児も大歓迎で、11時開始より大勢の児童や小さな子どもさん・保護者などが訪れました。

白いトイレの清らかな水に乗って流れるソーめんと共に、赤や黄色のミニトマト・色とりどりのゼリーは涼やかで、見た目も楽しく食欲もそそられます。サツと箸でソーめんをすくい上げ、汁に浸して美味しそ



うにほおぼったり、うれしそうにトマトやゼリーを受け止め、手元に確保したりと熱中していました。

他にも子どもさんが大好きなポテトチップス・チョコレートなどのお菓子や数種類のジュースやお茶、たくさん波田産のスイカ・お漬物・ネギやミョウガのお薬味も用意され、子どもも大人もお腹一杯大満足のひと時を過ごしました。

夏休みに入りしばらく会えなかったお友達同士、保護者の方々はひとしきり周りに集まって楽しそうに休み中のことなどお話に盛り上がっていました。

お天気にも恵まれ、夏休みの楽しい思い出のひとつになりました。楽しい思い出のひとつですね。「楽しかった、また来年も参加したい」との児童の声に企画した側も充実した一日でした。



ひよんなことから松本市を本拠とするJ2サッカーチーム「松本山雅FC」の観戦チケットが舞い込んだ。ホームゲームである。中学生であつた頃サッカー部に所属し日々汗していた頃以来、とんとサッカーというスポーツに触れる機会がなく、それにより興味が薄らいでいた。プロ野球が毎日テレビで観戦できたこともあり、またサッカーの実況中継もすくなかつたことや企業所属の実業団アマチュアサッカーの力量では、ワールドカップへの出場も夢のまた夢であつた。サッカーJリーグが発足してからめきめき自力をつけ、また海外で活躍する日本人選手も多くいることはなんとなく承知していた。

いただいた観戦チケットを無駄にするのは、くださった方に申し訳なく思い、何の予備知識もないままホームゲームの行われる「アルウィン」に娘と出かけた。試合開始1時間も前にかかわらず、熱狂的な地元サポーターが松本山雅FCのレプリカユニフォームを着こんで、声を枯らして応援をしている。プロ野球で聞こえてくる応援トランペットの騒音は聞こえてこない。スタンドで松本山雅FCサポーターとアウェーチームのサポーターが対峙し、埋め尽くしている。それぞれの応援歌を力の限り唄い、ドラムの打音調子よく選手を鼓舞するかけ声が響いていた。どのくらい前の時間から詰め掛けているのだろうか。試合も佳境に至る頃と思わせる熱狂振りである。

松本山雅FCのメンバーを見ると驚くほど地元県出身選手は少なく、全国いたるところから加入した選手ばかりであつた。外国出身の選手も見える。J2にランクする松本山雅FCにとって、国内最高J1にランクを上げることが再挑戦のシーズンであり、是非とも成し遂げたいのとこの。応援にも力がこもる。

試合が始まった。双方譲らぬ攻防に、地元を押し上げてくれる頼もしい仲間のように思える。攻勢実り、松本山雅FCが得点を挙げた。周りのサポーターと飛び上がり歓喜している自分がいた。



前半は『少年時代』から始まり、『案山子』・『愛燦燦』等懐かしいカバー曲中心でした。中でも、おやしバンドフェスティバルでグランプリに輝いた『青春の影』は圧巻でした。

後半はオリジナル曲メインで、物語の情景が浮かんでくる曲や、メッセーじ性の強い曲等これぞフォークソングという曲ばかりで感動しました。やさしくも力強いヴォーカル、透き通ったコーラス、笑いを交えたMC、心和むケーナの音色、存在感のある電子ピアノ、とても楽しませていただきました。そして最後は何と『大いなる波田』の合唱で締められました。

今年の主に県内で活躍されているフォークグループ『雪化粧』のコンサートでした。メンバーは5名で、ヴォーカルの藤森敬一さんは波田とはご縁があり、19年程前に波田小学校の先生をされていたそうで、当時の教え子の方や、知人の方々も来場されていました。

今後の活動・CD等については、藤森敬一さんのホームページにて、おすすめします。

我が家の娘は、中学を卒業してその小さな町にある高校へ入学し、3年間ソフトボール部で白球を追いかけました。その高校の監督は、40数年その地でソフトボールを教え、自宅を寮にし生活を共にしています。言葉にしてしまえば簡単ですが、中々できることではありません。

娘にとっても親元を離れての初めての経験。部活動はもろろんですが、寮生活もとても厳しく、大変だったと思います。でも町の皆様に応援して頂き、温かく見守って貰いました。——娘は言います——ソフトボールだけでなく、自分のこれからの人生に必要なことを教えてもらった3年間だったと。娘にとって、人生はまだまだこれからです。ついでに私の人生もまだまだこれからです。

あの時出逢えたことに感謝をし、これからの出逢いを楽しみに、素晴らしい毎日が送れますよう心から願います。



石川県輪島市に、門前町という町があります。輪島弱の小な町です。